



# 指導法 / 教材・教具の工夫

～可能性を追求するために～

Ver.4



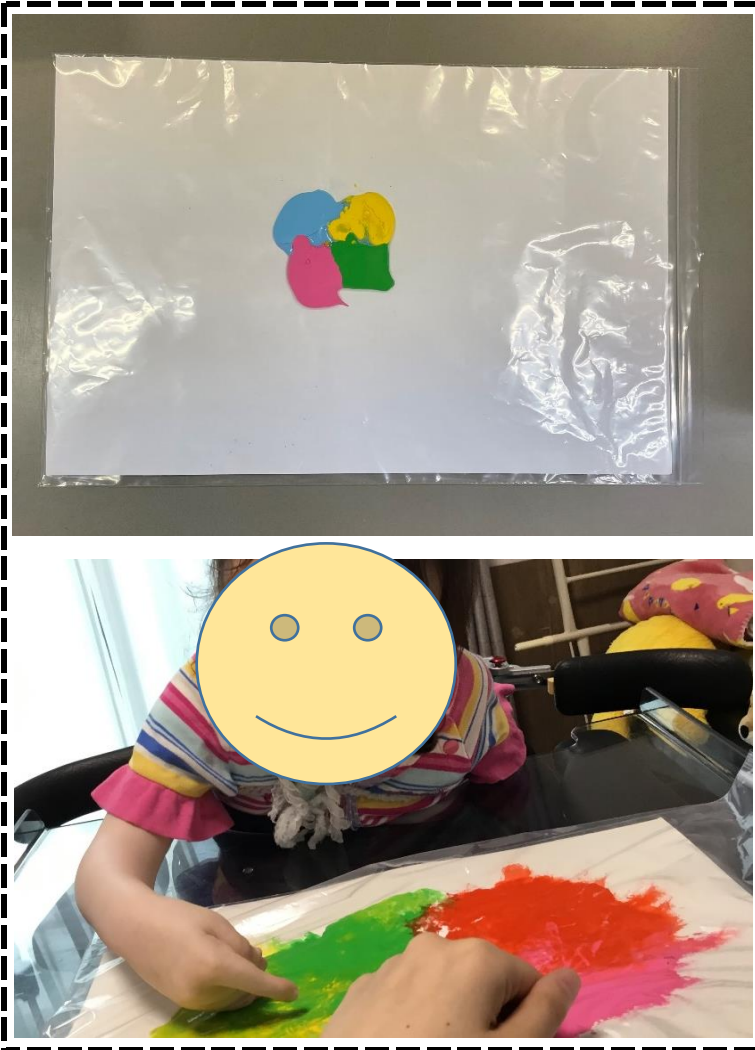
# R 2 年度 教材教具・指導事例集 目次

## 4 身体づくりの教材・自教具

4-1	ジップロックでぬたくり	S 部門在宅訪問	小学部
4-2	みんなでベリーダンス	S 部門	小学部
4-3	持ち手付きスポンジ	S 部門在宅訪問	小学部
4-4	オンライン用大きなカブ	S 部門在宅訪問	小学部
4-5	エプロン式 ボタン練習	S 部門	小学部
4-6	オンラインでおおきなカブ	S 部門在宅訪問	小学部
4-7	ひっぱるってたのしい！段ボールかぶ	S 部門	小学部
4-8	お手軽ゆびスタンプ	S 部門	小学部
4-9	どれだけ食べたか比べてみよう	S 部門	小学部
4-10	濯って聴いて感じよう	S 部門	小学部

# ジップロックでぬたくり

～誰でも、どこでも、ぬたくりに挑戦！～



## 対象となる児童・生徒

S 部門 小学部

在宅訪問

自立活動を主とする 教育課程

図画工作に対する苦手意識があり、特に手が汚れるような活動の時は、手を後ろに回して嫌がる時が多い。

## ねらい

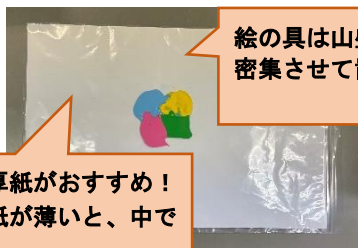
- ・絵の具にじっくり触れて、感触を味わう。
- ・絵の具に興味を示し、積極的に触れてみる。

## ポイント

- ・訪問だと家を汚せないから、絵の具を使う活動はあまりダイナミックにできないなあ
- ・アレルギー等で絵の具に触れないなあ
- ・ぬたくりの導入、何したら良いのかなあ
- ・どんな子どもにも！ どんな場所でも！

## 教材の使い方、指導の実践例など

①紙の上に絵の具を置いて、



②指や手の平で押したり・・・

とにかく自由に！！

③袋から出す



袋をはさみで切って・・・

④完成～！！



# みんなでベリーダンス ～オリパラ学習・オマーン編～



鈴は派手に金色

手首サポーターで  
圧着ばっちり



## 対象となる児童・生徒

S 部門 小学部

(F学習グループ)

自立活動を主とする 教育課程

対象物を繰り返し見聞きする中で、関心を向けて、興味をもてるようになる児童。

## ねらい

- ①鈴音を聞いてダンサーに関心を向ける。
- ②教材を手に着けて、自分の動きで鳴らすことができる。

## ポイント

- ・手首のサポーターと鈴を百均で購入。
- ・コントラストをはっきりさせて視覚的にも目立つようにした。
- ・鈴をサポーターに縫い付けるだけで完成。

## 教材の使い方、指導の実践例など

- ・片手に10個の鈴が付いているので、少し動かすだけで音が大きく鳴る。
- ・教材を手に着けた児童は、教材に意識を向けて鳴らすことができた。
- ・ベリーダンスという妖艶なダンスにぴったりな小道具が完成した。



## 持ち手付きスポンジ

～アクリル絵の具スタンプ～



### 対象となる児童・生徒

S 部門 小学部

在宅訪問

自立活動を主とする 教育課程

在宅訪問学級の児童で、手の動きが小さく握る力が弱いので、本人が手に力を入れた時に教員と一緒に動かすことで色を塗っている。

### ねらい

・自分なりの動きで手を動かし、絵の具を塗る。

### ポイント

・スポンジに切り込みを入れて厚紙を丸めたものを差して持ちやすくした。  
・訪問先から持ち帰る間にアクリル絵の具が固まってしまっても、そのまま捨てられる。

### 教材の使い方、指導の実践例など

- ・在宅訪問での授業の際、使用后すぐに用具を洗えないため、アクリル絵の具を使うと筆がだめになってしまう。また、家庭ごとに荷物を持って行くため、重たい物やかさばる物だと運べない。そこで、メランスポンジを筆代わりにして使うことで、そのまま捨てられ、持ち運びも簡単になった。
- ・スポンジに絵の具を付け、動かして色を塗る。

# オンライン用大きなカブ

～ペープサートとカブ教材～



## 対象となる児童・生徒

S 部門 小学部

在宅訪問

自立活動を主とする 教育課程

在宅訪問学級の児童で、見る活動は好きだが、オンラインの学習という教師が実際に児童に触れて声掛けができない環境で、集中を持続させることが難しい児童。

## ねらい

・オンラインの学習でも、一定時間、集中し興味をもって画面を見る。

## ポイント

・絵本の読み聞かせだけでは、集中力が持続しないので、教員がもっているかぶを見せて実際にペープサートを話に合わせて動かすことで興味をもたせる。

## 教材の使い方、指導の実践例など

・「おおきなかぶ」の絵本の読み聞かせを行う。次に段ボール箱に入れたかぶの葉っぱ（図上）だけ見せて、一緒にひっぱろうと児童を誘い、興味を引く。ペープサートで一人ずつキャラクターを出し、最後に児童を呼び画面の向こうから葉っぱを向けて一緒に引っ張るまねをする。児童にはあらかじめ、小さなかぶの教材（図下）を送っておき、一緒にひっぱる真似をする。

## エプロン式 ボタン練習 ～簡単にボタンの服を着たような状態に！～



### 対象となる児童・生徒

S 部門 小学部

(D学習グループ)

知的障害を併せ有する 教育課程

小さいものを指でつまんだりは上手にできるが、ボタンの留め外しは難しいです。

### ねらい

服を着た状態でのボタンの留め外しができる。

### ポイント

- ・エプロンになっているため、簡単に装着が可能です。暑い夏でも着た状態での練習ができます。
- ・机に置いた状態でのボタンの留め外しの練習も可能です。

### 教材の使い方、指導の実践例など

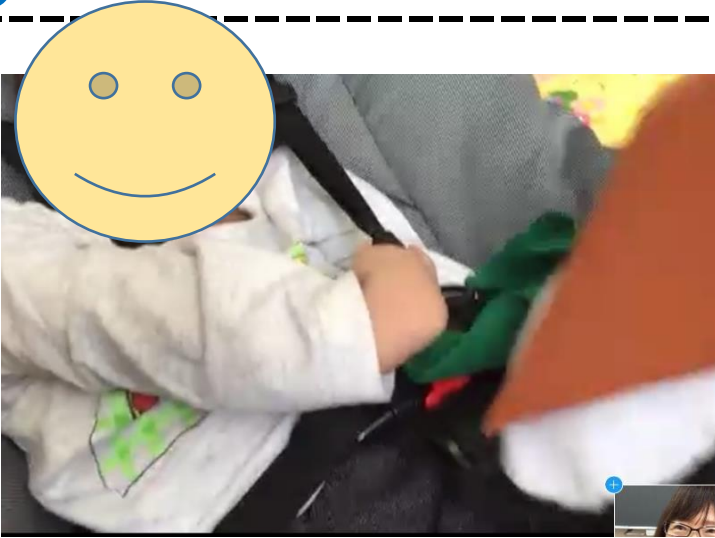
はずす

- ①右手と親指と人差し指で布を持つ。
- ②左手の親指と人差し指でボタンを持つ。
- ③右手で布を引っ張る。
- ④左手でボタンを穴の中に押す。
- ⑤右手の親指と人差し指で右側に出てきたボタンを持つ。
- ⑥左手の親指と人差し指で布を持つ。
- ⑦ボタンを持った右手は右側に、布を持った左手は左側に引っ張る。

とめる

- ①左手と親指と人差し指を穴の中に入れる。
- ②右手の親指と人差し指でボタンを持つ。
- ③右手で持っているボタンを、ボタンの穴から出ている左手の親指と人差し指で持つ。
- ④ボタンを持っている右手を離す。
- ⑤右手の親指と人差し指で布を持つ。
- ⑥布を持っている右手を右側に、ボタンを持っている左手を左側に引っ張る。

## オンラインでおおきなかぶ ～離れているけれど同じ教材～



### 対象となる児童・生徒

S 部門 小学部

(訪問学級)

自立活動を主とする 教育課程

小1で入学したが、オンラインでの授業のみ。授業を積み重ねるうちに、言葉かけや教材に触ることで少しずつ気持ちを向けるようになった。

### ねらい

- ・うんとこしょ、どっこいしょ！の楽しいかけ声や言葉のリズムを楽しむ。
- ・大人と一緒にかぶを引っ張って抜けたことがわかる。

### ポイント

オンラインでの授業のみ。画面を通しての授業のなかで、できるだけ同じ気持ちを味わえるようにした。

### 教材の使い方、指導の実践例など

画面を通しての授業。

- ①絵本読み
- ②見本（教員が画面のなかで同じ教材を使って、うんとこしょ、どっこいしょ、と、抜くのを見せる）
- ③本人が、ついてくれている大人と一緒にかぶを抜く。
- ④自分一人で抜く。



# ひっぱるってたのしい！段ボールかぶ ～おおきなかぶ・お話あそび～



## 対象となる児童・生徒

S 部門 小学部

(A 学習グループ)

自立活動を主とする教育課程

8名。物語を注視するために、視覚的支援や提示方法の工夫を必要とする児童や、興味のある登場人物やものを目で追い、自発的にセリフを模倣できる児童もいる。

## ねらい

- ① ひっぱり遊びを経験し、「うんとこしょどっこいしょ」という言葉と「ひっぱる」動きの連動を感じる
- ② 遊びを介して、物語を理解する

## ポイント

- ① 「ひっぱる」抵抗を感じられる
- ② コーンバーを用いて握りやすい
- ③ かぶが抜けた際、音が鳴るように土に見立てた箱に鈴を入れた

## 教材の使い方、指導の実践例など

- ・『おおきなかぶ』の教職員による劇を見聞きしたあとに、ひっぱり遊びを行います
- ・「ひっぱる」動きを感じる児童は、2本のバーの間に入り、先生同士が引っ張り合う抵抗を感じて、身体を動かします
- ・バーを持つことができる児童は自分でバーを握り続けて、抵抗を感じます。お友達と協力してひっぱります。
- ・自分でかぶが抜ける児童は、ひもやバーをひっぱってかぶを抜きます。

## お手軽ゆびスタンプ ～持ち運び簡単スタンプ～



### 対象となる児童・生徒

S 部門 小学部

( 在宅訪問 )

自立活動を主とする 教育課程

手や指に力を入れて、握ったり、つまんだりすることが苦手な児童。

### ねらい

自分(うで)の動きで、塗ったり、描いたりして、自己達成感を味わう。

### ポイント

- ・スポンジに十字の切れ込みをいれ、指を入れられるようにした。
- ・訪問で持ち歩くので、軽い素材にした。

### 教材の使い方、指導の実践例など

- ・絵の具を使用した筆を授業が終わった後、すぐに洗うことができないので、色が落とせないことがあるが、このスタンプだと、使用後は廃棄することができる。
- ・100円ショップですぐに手に入る素材で、簡単に作成できる。



## どれだけ食べたか比べてみよう



### 対象となる児童・生徒

#### S 部門 小学部

(D学習グループ)

知的障害を併せ有する 教育課程  
視線が逸れやすく、三指の指先でつまむことを課題としている。  
具体物や数字カードを見て、どちらが多いかを理解することを課題としている。

### ねらい

手と目の協応動作の向上  
手指の巧緻性の向上  
多少の理解を深める

### ポイント

児童が興味を持ち、楽しんで取り組めるように、好きなキャラクターや食べ物を使用している。

### 教材の使い方、指導の実践例など

学習場面は課題別。2名以上で取り組むことで、競争する楽しみの中で学習が行えると共に、どちらが多いかを理解しやすい。

①することの説明(時間内にたくさん入れること、どちらが多いかを競うこと)②児童に入れ物(アンパンマン)と皿を渡して開始③どれだけ入れたかの確認(児童が見える位置に提示して一緒に数える)④入れた数を数字カードで確認(数字カードを2枚児童に提示して入れた数を聞く)⑤入れた数をマグネットに置き換えて視覚的にわかりやすくした状態でどちらが多いかを問う。

## 触って聴いて感じよう

～ぎゅっ・ぼつぼつ音鳴るボール～



### 対象となる児童・生徒

S 部門 小学部

( A学習グループ)

自立活動を主とする 教育課程

・見ることが難しい児童／手で触ることに慣れていない児童

### ねらい

・「ギュッ」「ボツボツ」2つのボールの感覚の違いを感じる  
・手に触れる感覚に慣れる

### ポイント

・鈴を中に入れることで転がしたときに音が鳴るようにした。  
・突起が鋭利だと刺激が強すぎたので程よく丸まっているものにした。

### 教材の使い方、指導の実践例など

図工の授業で使用。2つのボールの違いを感じ、ボールをイメージにあった歌に合わせて握った。その後、この2種類のボールに絵具を付け転がした。ボールの中に鈴を入れることで見ることが難しい児童に、これから行う活動の見通しを持ってもらえるようにした。また、ボツボツのボールは突起部分が鋭いと刺激が強すぎるため、また転がしたときに模様が見つからないため、ちょうどよいものを探した。見ることが可能な児童も、音が鳴ることでボールを目で追ったり、意識をボールに向けることができた。